

第3回 つながり

Link



相曾一浩 (OM ソーラー株式会社)

前回、本誌に投稿してから6年余りが経った。その時はOMソーラーに移ってまもなくだったが、現在まで7年以上もお世話になったことになる。

この間にOMソーラーのシステムを大きく変えるOMXの開発を行い、またそれを昨年末にマイナーチェンジもした。OMXでは本学会から技術賞もいただいた。

第1回の「役員室から」では当学会が1975年設立されたことが示されていたので当時のことが急に思い出された。

学生だった当時、本学会は後樂園球場の近くのビルにあったため学会に行くことがあると双眼鏡を借りて球場を見下ろすのが新鮮で楽しかったことを思い出す。当時は原稿などメールでやり取りではなく郵送か持参するのが普通だったため、こんなものびりしたことも多かった。今では考えられないが、シミュレーション結果（紙出力結果）を電車で受け取りに行ったことも懐かしい。

就職したころは太陽熱温水器の販売量が最大の時期で前職の矢崎総業だけで1日1000台、1か月22,000台も作っていた。ソーラーシステム振興協会の原様に確認したところ、経産省統計で昨年2022年の太陽熱温水器の出荷量は18,064台とのことなので、現在では当時の1社の1か月分も出荷されていない状態のようである。

このあと太陽熱温水器の生産は急激に縮小するが、日本の農業人口の減少による需要減と給湯機の機能向上により太陽熱温水器との相性が合わなくなったのが原因と推察される。

その後、太陽熱温水器（主に自然循環）に変わって太陽熱給湯システムを改良することになるが、ボイラーとの接続や、貯湯槽とボイラー一体式、エコキュート一体式などの製品を出すのが、ボイラーだけ、エコキュートだけでも給湯システムとして成り立つ

ので2重設備となり、いかにお客様に説明して販売するか大変苦労することになる。

また、これまで前職にいた時から長く開発人生を送ってきた。

最初の仕事は新しい樹脂成型方法の開発を含めた太陽集熱器の開発で、初めて職場に着くと机に樹脂材料やプラスチック成形に関する本が積まれていた。これを読んで透明断熱材（Vフィルム）を作る方法を考えるというものだった。今からするとかなり乱暴な話だったが、人は極限的に困るとなんとか方法を見つけるもので、成形法や成形条件、金型材質や後処理方法など何とか見つけて製品化した。なかなか粘り強くなった。

その次はファンコイルやエアハンなど業務用空調機の開発で機種が多いのに閉口したが、この時の経験が現OM機器の開発に役に立っている。

その後、GHPや住宅用換気装置、集塵機、加湿器、全熱交換器など空調装置の機器開発を経て空気集熱器、自立型OMハンドリングの開発、太陽熱利用エコキュートの開発まで行った。

OMソーラーは奥村先生の「ソーラー研」時代からお付き合いさせていただき、そのことが前職を退職後、現在に至るきっかけとなっている。

本誌の原稿委依頼を加藤副会長から受けた時に、「内容は何でも良いと」言われて、1回目と2回目の原稿を拝見し、これまでのことを思い出した。

すると、大学に入って太陽熱に出会ったこと、そのため建築会社でなくメーカーに入社したこと、そこでの様々な開発経験を得たこと、定年退職してからOMソーラーに再就職したこと、そこで新機種であるOMXを開発できたことなど、素晴らしく「つながっている」と感じる。そういう訳で、もう少しの間太陽熱利用が再び活気が出るように、太陽エネルギーにかかわっていきたくて考えている。